



セーメーバン山頂

大月からほど近いところに位置する里山である。陰陽師で知られる阿部の清明に由来する山であるという。漢字では清明盤と書くらしい。どんな由来かは知らない。お化けかなんかが出るのかというと、そんな意味ではないらしい。今回の山では大岱山（おおぬたやま 1190m）が一番高い。

仙人のような顔をした、あごひげの F ジタさん以外は知った人はいないと思いつつ、例によって後ろの方を歩いてい

たら、歩き始めてすぐに、メガネをかけた背の高い女性が近寄ってきて、“どこかでお会いしましたね”と言う。次の休み時間にさっそくスマホでこのホームページを開いて確かめてみる。あった、1月の達沢山で、足をつらしたバアサマと一緒にサポートしながら歩いたスタイルのいいバアサマだ。今回は短パンにタイツに加えてレッグウォーマーで身を固め





ミツバつつじ

て、相変わらずスタイルが良い。話しながら歩いたら、毎日新聞旅行のMOA美術館の旅などにも参加しているという、文化バアサマでもあるみたいだ。琳派の光琳描くところの“カキツバタ図”のことなどを熱っぽく話していた。

稜線に出てしまうとあとはだらだら道ですとツアーリーダーは言っていたが、達沢山もそ

うであったが大月あたりの里山はケッコウ急登がついてまわる。大月市の山のシンボルというのがあちこちに見受けられる。笹子トンネルのデザインに大月の”O”の字をアレンジしたものとツアーリーダーから説明を受けたが、言われてみないとわからない。エイザンスミレが見られるというふれこみであったが、ほんの少しであったし、もともとこれは地味な花である。まあ、ミツバつつじが少し目立った程度であった。花はこれからだ。



大月市の山マーク



ツアーリーダー萩野さん

毎日新聞旅行のツアーリーダーは萩野さんと吉岡のお婆さんである。萩野さんは、2013年9月あの悪夢の安平路以来だ。これもスマホで確かめて判った。スキーのインストラクターが本職であるので、それ以外のシーズンだけツアーリーダーをやっているようである。安平路のときは、ものすごい藪漕ぎで二人のツアー客が行き切らずにビバークをしたという前代未聞のツアーであったが、萩野さんはいつもにこにこして全く動じる姿を見せなかった。立派なリーダーである。なお、南越百山から安平路へ向かうツアーは、あの時以来中止されたということである。当然だ。